

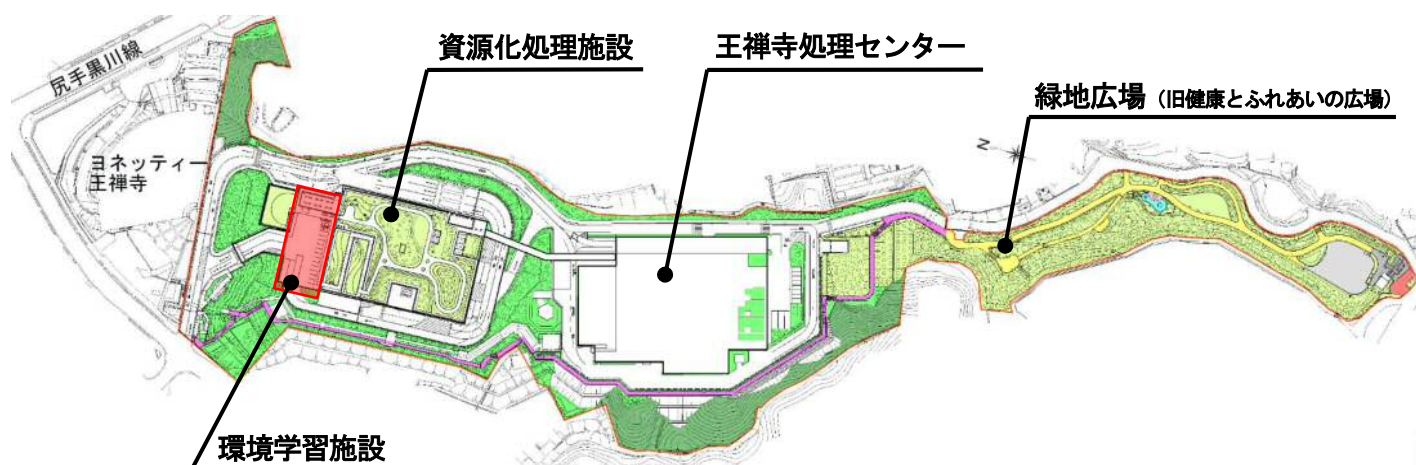
王禅寺処理センター

リサイクルパークあさお整備事業について

事業概要

本事業は、資源循環型社会の構築に向けた北部地域の総合的廃棄物処理施設の整備であり、平成24年4月から、北部地域のごみ処理施設の拠点として「王禅寺処理センター」が運転を開始し、平成28年4月より、粗大ごみ処理やリサイクルを行う「資源化処理施設」が運転を開始し、環境について学ぶことが出来る「環境学習施設」を開館します。

また、市民の憩いの場として自由に利用できる「緑地広場」の整備を進めて、平成29年1月には「緑地広場」がオープンする予定です。



王禅寺処理センター（リサイクルパークあさお）全体配置図

住所：川崎市麻生区王禅寺1285番地

～ 資源化処理施設 ～

川崎市北部地域（高津、宮前、多摩、麻生区）の粗大ごみ、小物金属、缶、ペットボトル、びんを再び資源物とするための処理をし、その後、各引取り業者へ売り払っています。

また、本施設はこれまで稼働していた「橘粗大ごみ処理施設」「橘ストックヤード（缶・ペットボトル）」「王禅寺ストックヤード（びん）」の代替施設として完成します。

総工費：約50億6,660万円

施設概要

敷地面積	約 55,000㎡
建築面積	約 8,000㎡
述べ床面積	約 14,000㎡（展示室を含む）
建物高さ	約 16m（最高部）

設備概要

設備の種類	処理対象物	設備規模
粗大ごみ処理設備	粗大ごみ・小物金属	40t/日（5h）
空き缶・ペットボトル 処理設備	空き缶（スチール・アルミ）	20t/日（5h）
	ペットボトル	12.5t/日（5h）
空きびん処理設備	空きびん	25t/日（5h）



王禅寺処理センター 資源化処理施設（イメージ図）

～ 環境学習施設 ～

◆施設の特徴

- ・環境問題（資源循環、温暖化対策、自然共生）について、見て、聞いて、触って、体験しながら学習
- ・子どもたちが興味を持つように、コンピュータグラフィックやAR技術※を用い、ゲームやクイズ形式で楽しく学習
- ・展示内容を、住民、市民団体、学校関係者等を交えて検討協議

※AR（Augmented Reality）とは、「拡張現実（感）」と呼ばれている技術で、カメラを通して空間を認識し、3DCG等で「モノ」や「情報」を、カメラの映像に重ねて表示させることで、カメラを通して見る世界にコンピュータが情報を追加したような感覚にさせる技術です。

◆施設概要〔資源化処理施設の4階、3階の一部〕（面積：約850㎡）

4階 エントランス（約60㎡）

3階 事務室（約50㎡）、展示室（約500㎡）、研修室1（約130㎡）、研修室2（約95㎡）

●展示室（3階）



●研修室1・2（3階）

団体利用者向けのガイダンス、休憩及び学習スペース、企画展示・イベントスペース

●その他（屋上）

太陽光発電設備、風力発電設備、太陽光集光設備

①エントランス（4階）

メインキャラクターの「かわるん」が来館者を迎える
センサーによりメッセージが表示



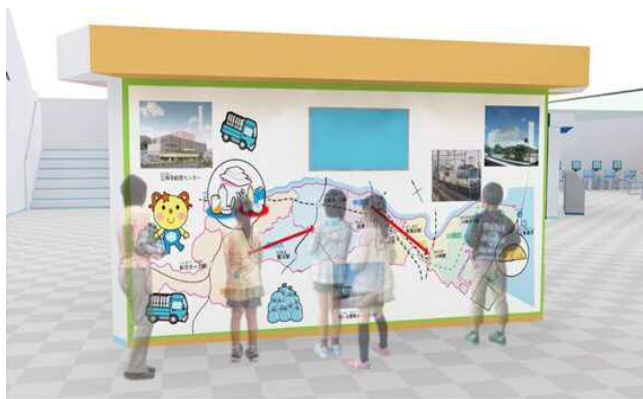
②ウェルカムゾーン（展示室）

施設及び案内キャラクターの紹介、なぜ環境問題について
学ぶ必要があるのかを考える



③資源循環ゾーン（展示室）

資源循環・ごみ処理、3Rのあり方と重要性について学習



④温暖化対策ゾーン（展示室）

低炭素・地球温暖化や再生可能エネルギーについて学習



⑤自然共生ゾーン（展示室）

川崎市の自然の歴史と動植物の生態について学習



⑥総合学習ゾーン（展示室）

川崎市・企業・市民の活動紹介、学習のまとめと復習及び
問題提起

